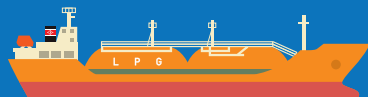
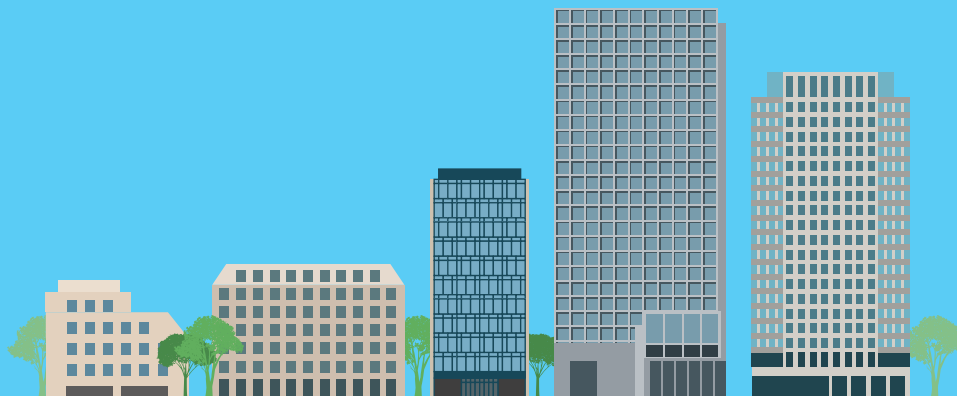


証券コード：9119

第128期 中間 株主通信

2018年4月1日 ▶ 2018年9月30日



飯野海運株式会社





代表取締役社長

當 倉 裕 己

■ 当中間期の事業環境について

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。第128期中間株主通信（2018年4月1日から2018年9月30日まで）をお送りするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

当中間期（第2四半期連結累計期間）の世界経済は、米国の通商政策に起因する貿易摩擦への懸念が一層強まり、中国では輸出入の伸びの鈍化により景気は減速基調となりました。しかしながら、全体としては米国をはじめとする堅調な先進国経済に後押しされ、景気は緩やかに回復しました。わが国経済は、個人消費や設備投資の回復から、景気は緩やかに回復しましたが、相次ぐ自然災害の影響による下押しが懸念されます。

■ 当中間期の取り組み・業績について

海運業においては、一部の船種では市況が回復しているものの、当社グループが主力とするケミカルタンカー市場は依然厳しい環境が続きました。そのような中、オイルタンカー及び大型ガスキャリアは中長期契約への継続投入により安定収益を確保しました。ケミカルタンカーにおいては、市況の低迷から運航採算は低調でしたが、ステンレスタンクを有した最新鋭の大型ケミカルタンカーを新たに船隊に加え、中東域から欧州向け及びアジア向けの数量輸

送契約により安定した稼働の維持に努めました。ドライバルクキャリアにおいては、市況上昇のタイミングを捉えた配船や数量輸送契約への船腹の投入、新規の専航船契約の締結等、安定収益の確保に努めた結果、運航採算は向上しました。

不動産業においては、好調な企業業績を背景とした人員拡大等への対応に伴うオフィス拡張、統合移転需要により、既存ビルを含めた全体の空室率は低下し、賃料水準は上昇傾向で推移しました。当社グループでは所有する各ビルにおいて良質なテナントサービスの提供に注力し、順調に稼働しました。また、新橋田村町地区市街地再開発事業では、既存建物の地下解体が完了、新築建物の基礎工事に着手しており、概ね計画通りに建築工事が進捗しました。

以上の結果、売上高は419億68百万円、営業利益は33億2百万円、経常利益は32億70百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は46億30百万円となりました。当中間期の配当につきましては、安定配当を継続するという当社基本方針に基づき、1株当たり普通配当5円とさせていただきます、期末配当金は5円、通年で10円を予定しております。

これからも、2年目となりました中期経営計画「Be Unique and Innovative. 「創立125周年（2024年）に向けて」」に沿って着実に経営を進めて参ります。今後とも株主の皆様のご期待にお応えできるよう精励いたしますので、引き続き倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

目 次	
1 株主の皆様へ	7 連結財務諸表
2 ビジネスレポート	9 会社概要
5 ニュース&トピックス	10 株式情報
6 連結財務ハイライト	

外航海運業

売上高比率

76.4%

売上高
営業利益

321億38百万円
11億7百万円



オイルタンカー

オイルタンカー市況は、低調に推移していたスポット市況が、燃料油価格の上昇や老齢船の解撤が進んだこと等から徐々に回復する展開となりました。今後、冬場の需要期に入ることから、更なる上昇が期待されます。

当社グループのオイルタンカーにおいては、支配船腹を中長期契約に継続投入することで、安定収益を確保しました。



大型ガスキャリア

LPGキャリア市況は、原油価格上昇による東西LPG価格の値差拡大を背景に北米-極東間輸送が活発化しトンマイルが増加したことで市況は堅調に推移しました。また、LNGキャリア市況は、新規プロジェクトの立ち上がりから輸送需要が増加したことに加え、冬場の需要期を前にした引き合いの活発化により、スポット用船市況は堅調に推移しました。

当社グループの大型ガスキャリアにおいては、LPGキャリア及びLNGキャリア共に既存の中長期契約へ継続投入することで安定収益を確保しました。



ケミカルタンカー

ケミカルタンカー市況は、市況低迷によるプロダクトタンカーのケミカルタンカー市場への流入が依然として続いており、加えて夏場の季節的要因による一時的な輸送需要の低下もあり、市況は総じて低調に推移しました。

当社グループのケミカルタンカーにおいては、市況低迷の影響を受け運航採算は悪化しましたが、当社の基幹航路である紅海を含む中東域から欧州向け及びアジア向けの数量輸送契約に加え、スポット貨物を積極的に取り込むことで、安定した稼働を維持しました。また、7月末にはステンレスタンクを有した最新鋭の大型ケミカルタンカーが竣工し新たに船隊に加わりました。当社と米国オペレーターとの合併事業会社では、大西洋域内を中心とした数量輸送契約やスポット貨物の集荷により稼働を維持しました。プロダクトタンカーにおいては、低迷する市況に鑑み、1隻を処分し、損益の改善に努めました。



ドライバルクキャリア

ドライバルクキャリア市況は、南米からの穀物輸送需要が減少したことや東豪州における旱魃の影響等により、市況は北半球の春季をピークに初夏にかけて一時的に軟調に推移しましたが、穀物をはじめとした荷動きの復調や、一足先に反転した大西洋市況の影響もあり、太平洋水域でも夏場終盤に底を打ち、上昇基調に転じました。

当社グループのドライバルクキャリアにおいては、石炭専用船とチップ専用船については順調に稼働しました。ポストパナマックス船については、市況上昇のタイミングを捉えた配船や数量輸送契約に投入した他、新規の専航船契約を締結する等、安定収益の確保に努めた結果、運航採算は大幅に改善しました。ハンディ船については、市況が横這いから軟調に推移する中、数量輸送契約への投入を中心に効率的な配船・運航に努めた結果、運航収支は向上しました。



内航・近海海運業

売上高比率

10.8%

売上高
営業利益

45億48百万円
4億69百万円



小型ガスキャリア

内航ガス輸送においては、LPGは例年通り季節的要因による不需要期が継続しており、石油化学ガスも出荷プラントの定期修繕等の影響により輸送量が減少したため、市況は軟調に推移しました。当社グループの内航ガス輸送においては、LPGの季節的要因による減産と石油化学ガス出荷プラントの定期修繕等に伴う輸送量減少の影響を受けましたが、中長期契約に基づく安定的な売上の確保と効率配船の実施により採算を維持しました。

近海ガス輸送においては、主要貨物であるプロピレン、塩化ビニルモノマーの受荷プラント都合により海上待機が発生し、船腹需給が緩んだ結果、市況は軟調に推移しました。当社グループの近海ガス輸送においては、東南アジアの荷動きは軟調でしたが、中長期の定期貸船契約に基づき安定した貸船料収入を維持しました。



太華山 1,550.74m(エチレンキャリア)

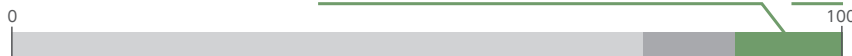
不動産業

売上高比率

12.8%

売上高
営業利益

53億63百万円
17億26百万円



不動産賃貸／不動産関連事業

都心のオフィスビル賃貸市況は、好調な企業業績を背景とした人員拡大等への対応に伴うオフィス拡張、統合移転需要により、新築及び築年数の経過していない大規模ビルを中心に新規の入居スペースの減少が進み、既存ビルを含めた全体の空室率は低下し、賃料水準は上昇傾向で推移しました。当社グループの賃貸ビルにおいては、所有する各ビルにおいて良質なテナントサービスの提供に注力し、順調な稼働を維持しました。また、新橋田村町地区市街地再開発事業では、地下解体が完了、新築建物の基礎工事に着手しており、概ね計画通りに建築工事が進捗しました。

貸ホール・貸会議室においては、多数の競合施設がある中、厳しい顧客獲得競争が続きました。当社グループのイイノホール&カンファレンスセンターにおいては、セミナー、講演会、映画試写会、その他催事の積極的な誘致により、稼働の維持に努めました。

不動産関連事業のフォトスタジオ事業においては、各国で大型スポーツイベントの開催等があり、インターネットを筆頭に、映画、TV向け広告需要が堅調な伸びを示しました。当社グループのイイノ・メディアプロにおいては、プロダクション部門での海外大型広告案件獲得の他、主力のスタジオ部門、ロケーション、レタッチ各部門での積極的な利用誘致により、稼働は堅調に推移しました。



飯野ビルディング

運航船腹

(2018年9月30日現在)

船種		保有形態		社船		用船		合計	
		隻数	重量トン数	隻数	重量トン数	隻数	重量トン数	隻数	重量トン数
外航海運業	オイルタンカー	2	601,911	0	0	2	601,911		
	ケミカルタンカー	14	478,352	28	912,251	42	1,390,603		
	大型ガスカリヤ	15	1,007,578	1	55,134	16	1,062,712		
	ドライバルクキャリア	2	166,909	13	622,102	15	789,011		
内航・近海海運業		16	23,330	10	34,497	26	57,827		
合計		49	2,278,080	52	1,623,984	101	3,902,064		

(注1) 社船には、グループ会社が所有する船腹を含みます。
(注2) 上記の重量トン数には共有相手持分を含めて記載しております。

賃貸ビル

(2018年9月30日現在)

名称	所在地・延床面積 (m ²)
飯野ビルディング	東京都千代田区内幸町 103,826.88
東京富士見ビル	東京都千代田区富士見 10,674.86
飯野竹早ビル	東京都文京区小石川 4,736.37
汐留芝離宮ビルディング	東京都港区海岸 32,702.37
NS虎ノ門ビル	東京都港区西新橋 9,175.48
合計	161,115.96

(注1) 東京富士見ビル及び汐留芝離宮ビルディングは、他社と共有しており、延床面積には共有相手持分を含めて記載しております。
(注2) NS虎ノ門ビルは、区分所有であり、延床面積には他の区分所有者の所有面積も含めて記載しております。

主なグループ会社

(2018年9月30日現在)

外航海運業	船舶の運航及び貸渡	Chemroad Echo Navigation S.A.
	船舶管理	イイノマリンサービス(株)
	海運仲立業及び舶用品売買	イイノエンタープライズ(株)
内航・近海海運業	運航・貸渡及び船舶管理	イイノガストランスポート(株)
不動産業	ビル管理	イイノ・ビルテック(株)
	倉庫業	泰邦マリン(株)
	フォトスタジオ	(株)イイノ・メディアプロ

01 新造ケミカルタンカー竣工

2018年4月から9月にかけてケミカルタンカー3隻（CHEMSTAR TIERRA、CHEMSTAR IRIS、CHEMROAD AQUA）が竣工いたしました。

新たに竣工したケミカルタンカーは、いずれも省エネルギー仕様のエンジンを搭載し、当社自主運航船として中東発アジア及び欧州向け航路を中心に稼働するほか、米国オペレーターとの合併事業でありますアライドケミカルキャリア（ACC）社に投入され、大西洋域内での数量輸送契約とスポット貨物の輸送等に従事いたします。

今後、米州の新規プラントや、中東でのプラント拡張などによるケミカル製品の増産があると見込まれます。当社グループの中期経営計画「Be Unique and Innovative. ー 創立125周年（2024年）に向けてー」で重点強化策として掲げておりますケミカルタンカー事業の世界展開の促進に向けて、グループ一同努めて参ります。



CHEMSTAR TIERRA 21,117DWT



CHEMSTAR IRIS 21,144DWT

02 新橋田村町地区市街地再開発事業における建築工事
請負契約を締結

当社が参画する新橋田村町地区市街地再開発事業に関し、本事業の共同事業者である関連地権者らと設立した新橋田村町地区市街地再開発組合を発注者（建築主）、清水建設株式会社を受注者（施工者）とする再開発ビルの建築工事請負契約を2018年4月に締結いたしました。

本事業は、当社所有の旧東京桜田ビルの土地と本事業に関わる各地権者の所有地を合わせた敷地面積計約7千7百平方メートルを一体開発する共同建替え事業です。同敷地内では最先端の環境性能と防災機能を備えた事務所及び商業施設等からなる複合用途ビルの建設を計画しております。

今後、敷地周辺一帯の都市機能の向上を目指し、調和のとれた街並みの形成、地域防災機能の向上や賑わいの創出、地域貢献施設の設置等に取り組めます。本事業は2021年に完成予定です。



完成予想図

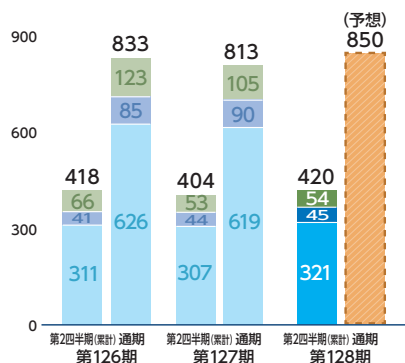
事業主体	新橋田村町地区市街地再開発組合
所在地	東京都港区西新橋一丁目
主要用途	事務所、店舗、駐車場他
敷地面積	約7,700m ² （現況）
延床面積	約106,000m ² （予定）
階数・高さ	地上27階、地下2階

Consolidated Financial Highlights 連結財務ハイライト

売上高

(単位:億円)

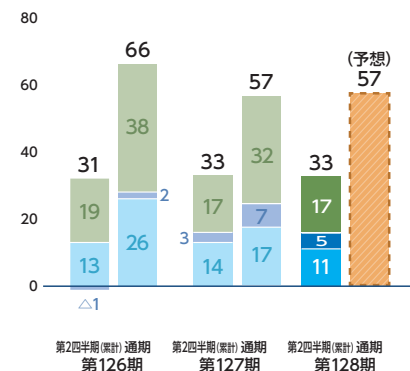
1,200 外航海運業 内航・近海海運業 不動産業



営業利益又は損失(△)

(単位:億円)

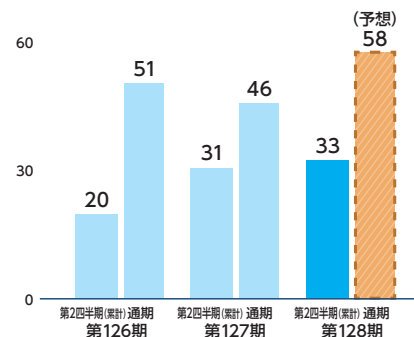
100 外航海運業 内航・近海海運業 不動産業



経常利益

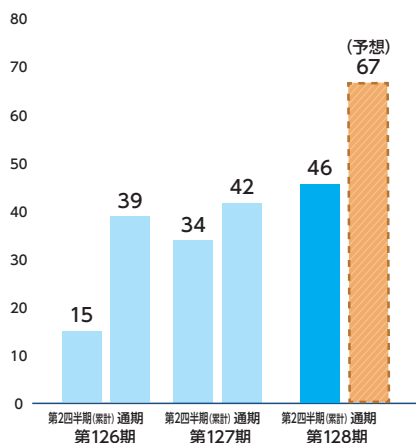
(単位:億円)

90



親会社株主に帰属する純利益

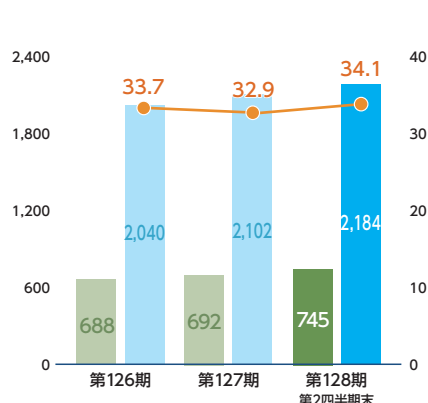
(単位:億円)



純資産/総資産(自己資本比率)

(単位:億円)

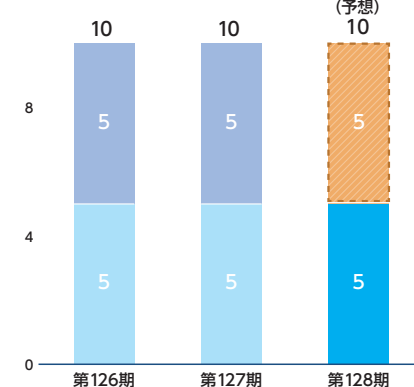
3,000 純資産 総資産 自己資本比率(%)



配当金

(単位:円)

12 中間 期末



(注) 表示金額未満を四捨五入しております。

Consolidated Financial Statements 連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円、単位未満四捨五入)

科 目	前連結会計年度末 (2018年3月31日現在)	当第2四半期連結 会計期間末 (2018年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	24,711	24,668
固定資産	185,526	193,712
有形固定資産	163,209	170,277
無形固定資産	594	589
投資その他の資産	21,723	22,846
資産合計	210,237	218,380
負債の部		
流動負債	41,688	52,143
固定負債	99,311	91,696
負債合計	140,999	143,838
純資産の部		
株主資本	64,036	68,137
資本金	13,092	13,092
資本剰余金	7,613	7,613
利益剰余金	46,576	50,677
自己株式	△3,244	△3,245
その他の包括利益累計額	5,088	6,268
その他有価証券評価差額金	3,976	4,481
繰延ヘッジ損益	19	1,060
為替換算調整勘定	1,092	727
非支配株主持分	113	136
純資産合計	69,237	74,541
負債純資産合計	210,237	218,380

連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円、単位未満四捨五入)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 (自 2017年4月 1 日 至 2017年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自 2018年4月 1 日 至 2018年9月30日)
売上高	40,439	41,968
売上原価	33,755	35,319
売上総利益	6,684	6,649
販売費及び一般管理費	3,346	3,347
営業利益	3,339	3,302
営業外収益	630	851
営業外費用	889	883
経常利益	3,079	3,270
特別利益	535	2,151
特別損失	9	411
税金等調整前四半期純利益	3,605	5,010
法人税等	141	273
四半期純利益	3,464	4,737
非支配株主に帰属する四半期純利益	20	108
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,445	4,630

① 資産・負債

資産合計は、主に新造船の竣工による船舶の増加や設備投資の進捗に伴う建設仮勘定の増加により前期末比81億43百万円増加の2,183億80百万円となりました。負債合計は、主に借入金の増加により前期末比28億39百万円増加し、1,438億38百万円となりました。

② 営業利益

海運市況は、ドライバルクキャリアでは回復の兆しが見られましたが、ケミカルタンカーでは低迷を続けました。不動産業では引き続き既存ビルが順調稼働しており、営業利益は33億2百万円（前年同期比37百万円の減益）となりました。

③ 経常利益

営業利益は減益となったものの、円安進行による為替差益の計上等により、経常利益は32億70百万円（前年同期比1億91百万円の増益）となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位：百万円、単位未満四捨五入)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 (自 2017年4月 1 日 至 2017年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自 2018年4月 1 日 至 2018年9月30日)
営業活動による キャッシュ・フロー	6,793	6,233
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,406	△8,881
財務活動による キャッシュ・フロー	△5,416	1,928
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△32	236
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△61	△485
現金及び現金同等物の 期首残高	10,719	10,536
現金及び現金同等物の 四半期末残高	10,658	10,051

- **キャッシュ・フロー分析** 🔍
- 「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、主に税金等調整前四半期純利益及び減価償却費の計上により62億33百万円のプラスとなりました。
- 「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、主に船舶や不動産への設備投資を中心とした有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出が、老齢船を中心とした有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入を上回ったことにより88億81百万円のマイナスとなりました。
- 「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、主に短期借入金の純増額及び長期借入れによる収入が、長期借入金の返済による支出を上回ったことにより19億28百万円のプラスとなりました。

詳細につきましては当社ホームページ
よりご覧いただけます。

飯野海運



<http://www.iino.co.jp/kaiun/ir/brief.html>

(単位：億円)

科 目	第126期		第127期		第128期	
	第2四半期(累計)	通期	第2四半期(累計)	通期	第2四半期(累計)	通期(予想)
売上高	418	833	404	813	420	850
海運業	352	711	352	709	367	—
外航海運業	311	626	307	619	321	—
内航・近海海運業	41	85	44	90	45	—
不動産業	66	123	53	105	54	—
営業利益	31	66	33	57	33	57
海運業	12	28	16	24	16	24
外航海運業	13	26	14	17	11	—
内航・近海海運業	△1	2	3	7	5	—
不動産業	19	38	17	32	17	33

(注) 表示金額未満を四捨五入しております。

会社概要

商号	飯野海運株式会社 IINO KAIUN KAISHA, LTD. (略称：IINO LINES)		
創業	1899 (明治32) 年7月		
資本金	13,091,775,488円		
主要事業内容	海運業、不動産業		
本社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1番1号飯野ビルディング		
事業所	海外 ドバイ、大連 海外現地法人 シンガポール、ロンドン、コネチカット、ヒューストン		
グループ会社	連結対象子会社		57社
	持分法適用関連会社		4社
	連結対象外関係会社		9社
	合計		70社
上場取引所	東京(第一部)、福岡		

取締役及び監査役並びに執行役員

取締役及び監査役

代表取締役社長	當 舍 裕 己
代表取締役	岡 田 明 彦
取締役	小 園 江 隆 一
取締役	神 宮 知 茂
取締役	荒 木 俊 雄
取締役 (社外)	遠 藤 茂
取締役 (社外)	大 江 啓
監査役 (常勤)	橋 村 義 憲
監査役 (社外)	堀之内 博 一
監査役 (社外)	山 田 義 雄

執行役員

社長執行役員	當 舍 裕 己	
専務執行役員	岡 田 明 彦	経営企画部管掌、事業開発推進部管掌、人事部管掌、 経理部管掌及び業務管理部担当
専務執行役員	荒 木 俊 雄	海務部管掌及びイイノマリンサービス (株) 取締役社長
専務執行役員	佐 藤 仁	イイノガストランスポート (株) 取締役社長
常務執行役員	小 園 江 隆 一	油槽船舶管掌、ガス船舶管掌、ケミカル船第一部管掌、ケミカル 船第二部管掌、海外戦略管掌、専用船舶担当及び不定期船舶担当
常務執行役員	神 宮 知 茂	経理部担当及びイイノマネジメントデータ (株) 取締役社長
執行役員	古 澤 宏	イイノエンタープライズ (株) 取締役社長
執行役員	長谷川 陽 一	油槽船舶担当及びガス船舶担当
執行役員	小 林 宏 是	ビル事業部担当、不動産開発企画部担当 及びイイノホール (株) 取締役社長
執行役員	吉 川 貢 市	事業開発推進部担当及び海外戦略担当
執行役員	井 上 徳 親	海務部担当及びイイノマリンサービス (株) 常務取締役
執行役員	藤 村 誠 一	ケミカル船第一部担当、ケミカル船第二部担当、ケミカル船 第二部長委嘱及びIINO SINGAPORE PTE.LTD.取締役社長
執行役員	大 谷 祐 介	経営企画部担当、経営企画部長委嘱及び飯野システム (株) 取締役社長
執行役員	佐 藤 靖 男	人事部担当及び人事部長委嘱

(注) 当社は、上場している各証券取引所に対して、取締役 遠藤茂、取締役 大江啓並びに監査役 堀之内博一、監査役 山田義雄の各氏を独立役員として届出おります。

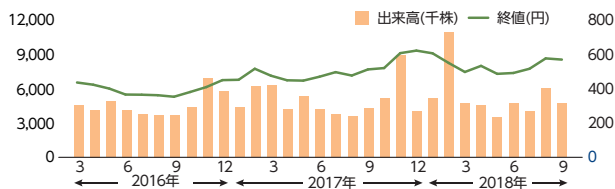
株式の状況

発行可能株式総数	440,000,000株
発行済株式の総数	111,075,980株
株主数	7,187名

所有者別株式分布状況



株価及び出来高の推移



インフォメーション

「特別口座」で株式をお持ちの株主様へ

株券電子化前に証券保管振替機構(ほふり)へ預託されなかった株主様には、当社の株主名簿管理人である三井住友信託銀行に「特別口座」を開設しております。特別口座は、株主様の権利を保全するための暫定的な口座であり、この特別口座に記録された株式は、証券会社の取引口座に振り替えなければ売買できませんので、お早めに証券会社の取引口座への振替をお願いいたします。

特別口座からの振替のお手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行又はお取引先の証券会社へお問い合わせください。

詳細につきましては当社ホームページよりご覧いただけます。

<http://www.iino.co.jp/kaiun>

飯野海運



大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東京海上日動火災保険株式会社	5,264	4.97
株式会社みずほ銀行	4,941	4.67
飯野海運取引先持株会	4,587	4.33
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,374	4.13
三井住友信託銀行株式会社	3,622	3.42
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,362	3.17
日本生命保険相互会社	2,256	2.13
トア再保険株式会社	2,253	2.12
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	2,105	1.99
三井住友海上火災保険株式会社	1,991	1.88

(注1) 持株数は、千株未満を切捨てております。

(注2) 大株主及び持株比率からは、自己株式(5,268,473株)を除いております。

マイナンバーについて

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きで必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

- **マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先**
- 証券口座にて株式を管理されている株主様
 - ➡ お取引の証券会社
- 証券会社とのお取引がない株主様
 - ➡ 三井住友信託銀行 証券代行部 0120-782-031
- **株式関連業務におけるマイナンバーの利用**
- なお、当社は、法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署に提出いたします。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
定時株主総会の基準日	毎年3月31日 なお、上記のほか必要があるときは、 予め公告いたします。
配当基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日（中間配当実施の場合）
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び 特別口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
郵便物送付先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話照会先	0120-782-031(フリーダイヤル)
公告の方法	電子公告 ただし、電子公告によることができない事故 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に掲載して行うこととします。 当社の公告はホームページに掲載しております。 http://www.iino.co.jp/kaibun
飯野海運株式会社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1番1号 飯野ビルディング 電話 (03)6273-3069



環境保全のため植物油インキを使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

WEBサイトのご紹介

当社では企業活動に関するお知らせや資料などをWEBサイトに公開しており、随時最新版が同サイトで確認できるようになっております。

飯野海運  <http://www.iino.co.jp/kaibun>



トップページ



IR情報トップ



IINO LINES